

# 「ふるさと婚」プロデュース

栗林公園や金刀比羅宮で結婚式を……。香川県の地元名勝で結婚式を挙げるカップルが増えてきている。最近では地元出身者以外に、県外から訪れる例も増え始め、地域活性化としての側面にも注目が集まる。結婚式のプロデュースを手がけるフェアリー・テイル（高松市）で創業以来、「ふるさと婚」にこだわり続けてきた藤田徳子社長にその魅力や展望について聞いた。

藤田 徳子さん



（ふじた・のりこ）1972年（昭47年）岡山県倉敷市生まれ。神戸女学院大学卒業後、広告代理店入社。自身も結婚の経験がなかったが、1998年に結婚し、2人の子供がいます。現在は子育て中。

## 地元の宝再発見の好機

「地元、ふるさとでの結婚式」に強い思いがある。

「創業間もないころ、瀬戸内海に浮かぶ女木島出身の女性と東京出身の男性の結婚式を手がけた。東京に移り住む女性のために、女木島が見える会場を探し回っていたところ、高松港に隣接する玉藻公園内で高松城の御殿『披雲閣』が貸会場となっていることを知り、高松城での結婚式を企画した」

「結婚式などの人生の節目は、自分のふるさとやご先祖

様などルーツを探る数少ない機会。初の高松城の結婚式では、ずっと島で育ってきた女性が東京に行く際、「瀬戸の花嫁」として残る人の思い出にも残る」

15日には、フェアリーテイル社として初めて栗林公園での挙式がある。

10年がかりで公園を管理する県と話を続けてきた。ふるさと香川、といえればやはり栗林公園だ」

「地元の名勝といえども多

「花婿も花嫁も香川とは関係なくとも、瀬戸内の景色が気に入るとか、自分らしい結婚式をしたいという意志を持っていたりするカップルが多い。ハワイや沖縄での結婚式プランはどうしても商業色が濃くなってしまふ。香川は瀬戸内海があり、伝統ある史跡や公園があり、都市的な施設もあるなど、いわば『洗練された田舎』で懐が深い」

「地元出身者にとっては、名勝での結婚式は思い出になるとともに、地元のすばらしさを再発見する機会になる。県外出身者にとっては特色ある式ができるだろうし、何十人単位でももらえる史跡や公園にとってはファンを増やすまたとない機会だ」

「地元の財産である文化資源のすばらしさを、結婚する人やそれを祝福する人々に伝えるとともに、地域活性化につながってほしいと思っている。文化財を使用する際のノウハウなども少しずつ積んできた。今後は地元商店街との連携も検討したい」

「10年がかりで公園を管理する県と話を続けてきた。ふるさと香川、といえればやはり栗林公園だ」

「地元の名勝といえども多

## 官民協力が不可欠

〈記者の目〉産業としての枠を超え、結婚式で地域活性化を図るといふアイデアは斬新だ。特に県外の人の場合は再訪も期待できる。



ただし、こうした取り組みが定着するには業者だけでは限界がある。高松城は高松市、のよう

時間がかった。晴れの日が多いなど気候が良い香川県は結婚式には適した地域だ。官民協力で「瀬戸の花嫁」をブランド化すれば地元回帰にもつながるのではないか。

（高松支局 嶋田有）